

I n f o r m a t i o n



埼玉県マスコット「コバトン」

花とみどり

vol. 73
2020.2.28

特集

2020 東京オリンピック・
パラリンピックに向けた取組



植木を植栽するのに適した容器を開発しました（詳しくは3ページ）



埼玉県花と緑の振興センター

所長 あいさつ

～ 本県花植木の利用拡大に向けて ～

花植木生産は、平成10年頃をピークにして産出額が減少している傾向にあります。そういった中で本県の花植木生産は花きと植木類を合わせて全国で五指に入る規模を誇り、一大産地としての地位を築いています。

本年夏には東京オリンピック・パラリンピックが埼玉県を会場にして、サッカーなど4つの種目が開催されます。これだけでなく、ホストタウン、キャンプ、聖火リレーと競技だけでなく様々なチャネルが用意されています。

このような機会はまたとないものではありません。

県内外や外国から本県にお越しになる皆様を心からお迎えすることはもちろん大切なことです。これにとどまらず、将来にわたりこれをどのように花植木の利用拡大、産業の発展につなげていくかという

ことはさらに大切なことであり、課題と考えています。

当センターでは、花植木に対する県民の皆様の関心を深め、すそ野を広げていくためにわかりやすい内容とした講座の開講やイベントへの出展などを機会あるごとに行っているほか、ビジネスとしての県内外での実需を拡大し、利用を促すための周辺事業者への働きかけ、さらには盆栽を含む植木の輸出を睨んだ技術開発や流通ルートの模索など将来に向けた取組を展開しています。

これらは決して一朝一夕に結果を成すものとは限りませんが、県内花植木産業、地域の発展を夢見て精力的に行動していきますので、皆様の御理解、御支援をお願いいたします。



安行寒桜（撮影地：所内）

生産者

清水園芸 清水秀一 氏

紹介

清水秀一氏は、花植木の生産が盛んな深谷市で、緑化植物を主要品目とした経営を行っています。建物の壁面や屋上を緑化する技術が高く評価されています。



清水氏（自園のハウス内にて）

経営・技術の特徴

緑化植物の生産に力を入れていて、経営規模は約1haです。人工地盤や壁面・屋上の緑化は、設置場所に応じた高い技術が求められますが、氏はその第一人者で、県内の施設では、オリンピックのバスケットボール全試合の会場となるさいたまスーパーアリーナの壁面緑化は氏の手によるものです。

昨年は、花き技術・経営コンクール（主催：（一財）日本花普及センター）で農林水産省生産局長賞を受賞しました。2019年はオリンピック準備が進む都内の緑化を多く手がけたこともあり、氏にとって記憶に残る年になったとのことでした。

地域での共助・活動

グランドカバープランツや観賞用植物を生産する若手経営者とグループを作って、共同で通信販売を行う仕組みを作ったり、独創的なアイデアで植栽工事の効率化に取り組むなど、地域の植木産業活性化のリーダーとして活躍しています。



緑化素材として栽培している植物

緑化技術の追求

氏自身も緑化技術の開発に熱心に取り組んでいます。所有地の一部を大学の研究のために貸与し、技術革新のための支援を行っています。街の緑化推進と業界発展のためにも、緑化技術の改良などには、研究機関にもっと取り組んでほしい、という強い願いもお持ちです。

《取材を終えて》

国内外から多くの来県者を迎える本年、自らの手がけた緑化技術でお迎えできることを大変うれしく思っていることが伝わってきました。

トピックス

～ 新しい植栽容器の特許を取得しました ～

当センターでは、新しい植木植栽容器について、令和2年1月7日に特許を取得しました(登録名称:「仕切り及びケース並びに植木植栽容器」)。

本容器は、人工地盤上に植木を手軽に植えて飾ることを目的として開発したものです。風による転倒を防ぐため、重心を低くし底面が浮かないように排水口を側面に設置、根の伸長を制限するため、内部に仕切り板を設置、など、植木を植えた容器が抱える課題を解決するための工夫を取り入れました。

植木緑化を手軽に楽しむことができる本容器は、オリンピック・パラリンピック時のおもてなし植栽などへの利用を推進していきたいと考えています。



～ 輸出用盆栽の線虫対策技術の開発に取り組みました～

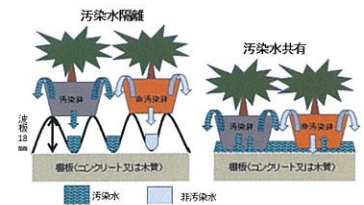
世界の多くの国と地域では、土がついた植物の輸入を禁止しています。しかし、EU諸国では、昔から盆栽の人気の根強いこと、特例として、日本からの土付きの盆栽の輸入を認めてきました。そして本県は、EU向け輸出額全国1位を誇る盆栽の輸出県であることから、オリパラ関連で訪日予定の外国人から「盆栽を購入して帰りたい」といった相談が輸出盆栽生産者に届いています。

しかし、土付きの盆栽は、土壌病害虫を根絶せず輸出してしまうリスクがあります。特に近年問題となっているのが、盆栽・植木の土壌線虫で、現時点では完全防除が難しいのが実状です。

そこで当センターでは、平成28年から3か年の「植木類の輸出における線虫事故を防止する技術の開発及び実証」事業に、国の中央農業研究センター・千葉県・福岡県ほか関係機関と共同で取り組みました。

EU向けの盆栽は、地面から60cm以上の高さの棚で管理することが義務付けられているため、線虫は同じ棚上の盆栽から盆栽へと感染する可能性が高いと考えました。実験の結果から、線虫の移動にはかん水後、鉢底から流れる水が関与する確率が高いことが判明したため、資材(18mm波板)の上に盆栽を置いたところ、盆栽同士が流出水を共有しないことで、線虫移動の制限に一定の効果が見られました。

今後も、線虫の効果的な防除方法の検討など、安心して輸出を行うための、生産者が取り組みやすい技術の確立に力を入れていきます。



緑のコラム

～ 植木の産地見学会・情報交換会を開催しました～

県産植木類の生産・流通について知識を深めてもらい、緑化への理解の促進と利用の拡大を目的に、建築や造園設計などに携わる方々を対象として産地見学会・情報交換会を開催しました。

初めに、県内の植木生産額が全国上位県であることを説明し①一般的な手法で植木・苗木類を生産する(有)清水種苗(さいたま市)②安行四季彩マットを使用して植木類を生産する大塚緑化(川口市)③植木・苗木流通に取り組む植木大手卸の株テラヤマ(川口市)の3事例を見学しました。

次に、植木・苗木類の生産・流通の現状や課題について説明するセミナーや、(農)あゆみ野農協安行園芸センター展示場で、ほ場にある植木類の特徴や用途など説明や情報交換を行いました。

後日、アンケート調査をまとめたところ、右記のような傾向が見られました。



○企業・団体担当者は、新しい樹種や品種、売れ筋商品の紹介、施工現場の見学、施工後の病害虫や生育特性に合わせた管理方法などの情報を望んでいる。

○市町村・県担当者は、植木の植え方や剪定方法といった基礎的な管理などの情報を望んでいる。

今後に向けての動きですが、ハウスメーカーなどに県産植木の利用を働きかけるとともに、生産者への情報提供を行い、供給体制の強化を推進します。今年は、植木をオリンピック・パラリンピックを盛り上げるための装飾展示として活用する話もあり、これを機会に新たな需要を開拓できればと考えています。

園内の植栽樹木の紹介⑦

オリンピックイヤーの今年、本園でもオリンピックに関係した植物がないか
と見渡したところ、出てきたのがオリーブです。オリーブは地中海地方原産の
植物で、約 6000 年前から栽培されてきました。

古代オリンピックでは、勝者に授けられる冠はオリーブ
の木から作られたものだったとか。ちなみに月桂樹から作
られる月桂冠は、古代ギリシャでは優れた詩人に与えられ、
桂冠詩人という言葉があるそうです。

当園のオリーブ、ゲッケイジュは、あまり目立つ木では
ありませんが、御来園の際見かけたら、思い出してみてください。



オリーブ

ゲッケイジュ

海外の方向けの盆栽講座を行いました

オリンピックイヤーを前に海外の方に埼玉の盆栽に親しんで
いただくため、12月7日、外国人対象の盆栽体験講座を開催しま
した。22人の参加者は、参加人数順にアメリカ、オーストラリア、
ニュージーランド、中国、フィリピン、カナダなど。ちょっとぼ
さぼさのシンパクの盆栽の枝葉を整理して針金をかける体験で、
自分の手の中で盆栽らしくなっていく様子に、参加された皆さん
は大喜びでした。



▶▶▶ 展示園の安全対策工事を実施します(令和元年度～3年度予定) ◀◀◀

花と緑の振興センターは、昭和28年に「埼玉県植物見本園」として県内植木・造園業の発展に資することを
目的に現在地に設置され65年が経過しました。

その間、展示園の大規模な改修など行われないうまま現在に至っておりますが、随所に傷みや破損が見られる
他、バリアフリーの対応も遅れていることから、本年度から3か年の予定で展示園の安全対策工事を実施する
こととしております。

本年度の工事は、令和2年1月～3月の間、展示園のうち西園について、園路舗装の改修や階段の設置、
側溝へのふたの設置、階段や斜路への手すりの設置などを実施しています。

工事にあたりましては、来訪される県民の皆様への安全を最優先に実施するために、閉園や一部区域を立入
禁止とするなどの措置を講じさせていただきます。閉園期間などは園内での掲示やホームページなどでお知ら
せをいたします。御理解と御協力をお願いいたします。

Information

花とみどり

令和2年2月28日発行

発行所/埼玉県花と緑の振興センター

発行人/埼玉県花と緑の振興センター 所長 田村 真実

電話 : 048-295-1806

ファクシミリ : 048-290-1012

HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html>

E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

